【環境省部門ホームページの構成の特徴】

①環境境政策の特徴

1994年、ドイツ政府は「次世代のために自然を守る責任がある」ことをドイツ基本法(日本の憲法に相当)に加えて保障。ドイツが環境先進国といわれるよりどころとなっている。法制度の体系を 1970年以降、大気汚染や気候変動の防止、廃棄物など環境保護分野の9項目において整備・強化。この9項目を経済、エネルギー、農林、漁業、運輸などで実施し「持続可能な発展」を促進している。特に脱原子力の推進、環境税の導入、拡大生産者責任、消費者啓蒙のブルーエンジェル・マーク等を推進している。

{大阪・神戸ドイツ連邦共和国総領事館ホームページより引用)}

②ホームページでの特徴

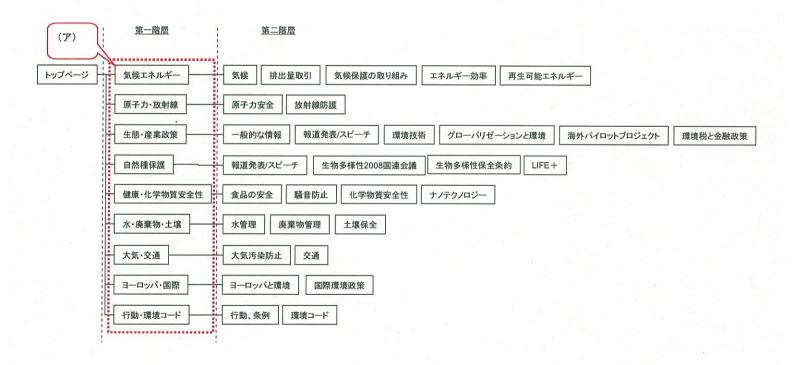
トップページにパンフレットや教材を多く配置しており、普及と教育に力を入れている。 子供向けのページを別途設けている。

③ホームページの構成

左部:組織概要、トピック、提供しているサービスへのリンク。

中央部:主要ニュース

右部:パンフレットや教材を目立つように配置。



3. スウェーデン (Ministry of the Environment)

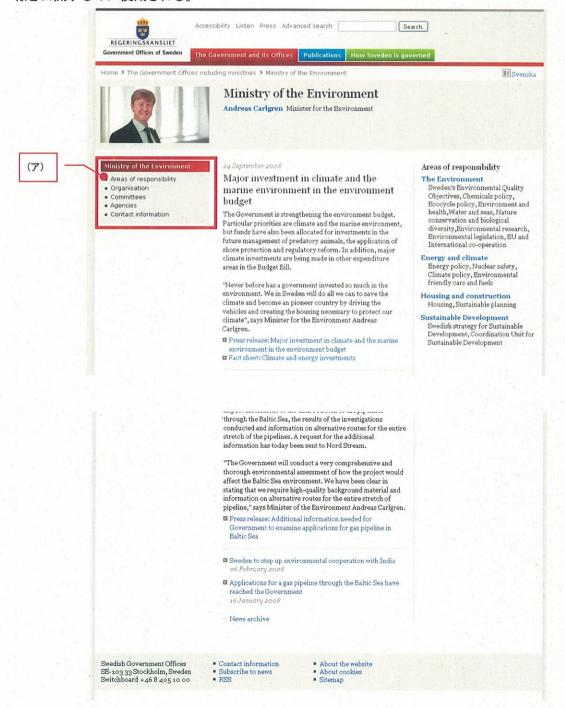
[URL] http://www.sweden.gov.se/sb/d/2066

【対応言語】スウェーデン語、英語

【IT技術の特徴】

検索機能	あり	文字拡大•縮小	なし	画像	静止画	その他	RSS	Mail
							Commission and the commission of the commission	

RSS:Web サイトの見出しや要約などのメタデータを構造化して記述する XML ベースのフォーマット。主にサイトの更新情報を公開するのに使用される。



【環境省部門ホームページの構成の特徴】

①環境政策の特徴

スウェーデンは環境保護プログラムをくみ、自国の酸性雨の原因となるものを大幅に減らすことに成功。また地球温暖化の防止策として、いちはやく二酸化炭素排出税を導入し、二酸化炭素排出量は 5.90t/人(2003 年)という数値。 大気汚染、とりわけ酸性雨への対策として硫黄税も導入しており、1970 年に入ってからは硫黄酸化物排出量が 3 分の 2 以上に削減。

OECD の持続可能な社会に向けた国際ランキング「持続可能な発展」で、世界で最も進んでいる国は、スウェーデン、デンマーク、そしてスイス。(OECD 加盟国、全 30 ヶ国を調査。)2004年と2007年の1位はスウェーデン。

{以上 OneWorld、MSN エンカルタ 百科事典ホームページより引用)}

②ホームページでの特徴

政府機関のホームページ内の 1 コンテンツとして構成されている。 文章中心の情報提供のみで、情報量は少ない。

③ホームページの構成

左部:組織概要

中央部:ニュース

右部:責任の分野に関するリンク。「環境」「エネルギーと気候」「住宅建設」「持続可能な開発」

